

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来の社会をリードする人材を育成することで地域の誇りとなる学校をめざす

- 1 自立心と進取の気概を育成する
- 2 フェアなルール感覚を育成する
- 3 多文化共生・国際教育を推進する
- 4 科学的・論理的に考え行動する人材を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。

- ア 説明・発表・討論等を通じて、「思考力・判断力・表現力等」を育成するような「言語活動の展開」をめざす。
- イ グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高めることに尽力する。
- ウ 令和3年度入試からの新しい制度を踏まえ、課題をもち授業研究に取り組む。

(2) 「総合的な学習の時間」に展開している「課題研究」を充実させ、「総合的な探究の時間」の目標達成をめざす。

(3) これまでの教育活動の実績に基づき、実践的な英語教育と多文化共生・国際教育を一層推進する。

- ア GTEC を全員受験（1・2年）とし、英検等の受験を勧め、4技能バランスのよい英語力の育成をめざす。
- イ 全員参加の海外修学旅行や英語圏およびアジア圏への研修の充実、海外からの訪問者の受入れとともにオンラインなど新しい形の国際交流を推進する。

(4) この数年間に整備した ICT を活用するより質の高い授業と講習を実施する。

(5) 希望進路達成率（第2希望も含めて）85%以上をめざす。（H30：67%、R1：74.3%、R2：80.8%）

(6) 令和3年度入試から実施された「大学入学共通テスト」を踏まえ、新大学入試制度に関する情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。

- ア 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、基礎的・基本的知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育みをめざす。
- イ ペーパーテストによらないこのような新しい評価（パフォーマンス評価やポートフォリオ評価など）を徐々に生徒に示していく。

2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成

(1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。 ※部活動加入率 80%をめざす。

(H30：75.4%、R1：77.7%、R2：73.4%)

(2) ユネスコスクールとして国際交流、地域交流そして社会貢献を推進する。「人権」、「国際理解（国際協力）」、「ESD（持続可能な開発のための教育）」等による「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた取組みなどを通じ、グローバルな視野をもった人材を育成する。

(3) 生徒会活動の活発化を図り、全生徒の自律心と自立心を高める。

(4) キャリア・パスポートを活用しながら、生徒一人ひとりが自らの学びや生活を見通し、振り返ることができるようにする。

3 生徒の希望をかなえる学校づくり

(1) 日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育によって将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。

(2) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育を進める。自宅学習時間の確保を考える。

(3) 保護者や地域への情報発信および保護者からの情報受領を促進する。

(4) 生徒が自主的に行動できるノークラブデーを有効活用するとともに、教職員の働き方改革も推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定的意見が 89.1%と目標を大きく上回った。今後は読解力の養成とも結びつけて、より活性化を図りたい。 ・総合的な探究の時間（LINC）を再構築し、1年生では調べたものを発表する段階まで達成した。国際科（85.1%）に比べ、普通科（72.3%）が低いことが課題。 <p>2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権・国際教育等への肯定感は目標より高かった（87.4%）。国際交流などはまだまだ制限が大きい。創意工夫で生徒たちに実体験できる場を創出したい。新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束を願う。 ・制限のある中で生徒会執行部の生徒たちは工夫をして行事の実現に力を尽くした。それが生徒会活動への評価 85.4%に現れている。与えられた現状から何ができるのかということを考える力をさらに育みたい。 <p>3 生徒の希望をかなえる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」を肯定的にとらえた生徒が 81.7%と目標に届かなかった。学校行事などが制限・縮小されたことなどが大きな要因と考えられるが、その中でどのように生徒の動機づけを上げられるかを工夫していく必要がある。 	<p>第1回（書面開催 令和3年6月10日までに意見聴取）</p> <p>○R3年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報体制の強化とのことだが、具体的にどうするのか、また時期はどうか。 ・「新しい国際交流」とは具体的にどのようなことか。 ・総合的な探究の時間の再構築について、具体的な方策が必要である。 ・キャリア・パスポートの様式を確定して活用すべきではないか。 <p>第2回（令和3年11月6日開催）</p> <p>○学校行事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事が中止・縮小している。在学中に取り返せるものはないか。 <p>○進路実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学実績等は上がっている。どのようにして子どもたちが結果を出したのか分析を。 ・進学してからどのようにその後の道を切り拓くかが大切。どこでも学び、自ら進路を切り拓く子どもを育てることが大切。 ・学び方、探究の仕方、問題を手繰り寄せる力を着実に育てることが大切。 <p>○ICT活用（GIGAスクール構想）に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後どのように ICT 機器を活用していくのか。情報モラル教育の充実も必要。 ・具体物を画像・映像等で見せるだけではなく、想像の中で考える力を育むことも必要。 <p>第3回（令和4年3月23日までに意見聴取）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LINC を通じた学習は、確実に生徒の考える力、問い直す力（critical thinking）を養っていると感じる。今後、学習前のベースラインと学習後の成果の記録を。 ・進路指導の実績は、何よりも生徒への教科指導の現れ。 ・進学指導のための高度化のノウハウなど努力ポイントのより一層の共有化を。 ・国際都市をめざす泉佐野市の先導役として英語力・多文化共生・国際教育の推進を。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 授業改革 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。</p>	<p>(1) ア 説明・発表・討論等を盛り込んだ授業を行う。 イ グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高める。 ウ 新学習指導要領と新しい入試を踏まえた授業づくり エ 授業において生徒の思考力や表現力を促す様々な工夫を行う。</p>	<p>(1) ア 全教科で1回以上の校内公開授業を行う。 イ 学校教育自己診断「考えをまとめたり発表する機会がある」75%以上。 [81.4%] ウ 課題をもって1年間授業づくりに取り組み、情報交換の場を年間3回開催。 エ 授業アンケート「6 授業では自ら考え表現(記述、発表、作品、パフォーマンスなど)する活動が多く取り入れられている」の肯定的評価 80%以上を維持。 [87.4%]</p>	<p>(1) ア 11月に授業公開週間実施、各教科平均2回以上の授業公開(◎) イ 89.1%あり、一定程度生徒には浸透している。(◎) ウ 教科代表会議や各教科の会議など年間3回以上開催。(◎) エ 生徒の肯定的評価は89.1%あり、一定の浸透は見られる。今後はより質を向上していくことが重要。(◎)</p>
	<p>(2) 課題系研究</p>	<p>(2) ア 「総合的な探究の時間」の指導体制・環境と指導計画を再構築する。 イ 「総合的な探究の時間」の目標を見据えて「課題研究」に取り組む。</p>	<p>(2) ア 全教職員で共有するための具体的な指導計画を年度末までに完成させる。 イ 学校教育自己診断「『総合的な探究の時間』は役に立つと思う」70%以上。 [76.1%]</p>	<p>(2) ア 指導計画はほぼ完成したが、全教職員での共有をより進める必要がある。(○) イ 74.2%(◎)。 ※普通72.3%、国際85.1%</p>
	<p>(3) 英語教育と多文化共生・国際教育</p>	<p>(3) ア GTECの全員受検(1・2年)を推進する。 イ 英検等の受験を奨励する。 ウ コロナ禍が続く中、新しい国際交流を実践する。</p>	<p>(3) ア CEFRの国の目標(卒業時)を上回る。 イ GTECや英検などの結果を共有し指導に生かす分析ペーパーを6月末までに作成。 ウ 学校教育自己診断「異なる文化や考え方を大切にする」70%以上。オンライン国際交流を1回以上実施する。 [81.2%]</p>	<p>(3) ア 国の目標は高校卒業までにA2(英検準2級等)相当50%以上のところ、1年普通科41.2%、1年国際科69.8%、2年普通科92.5%、2年国際科98.7%。(◎) イ 分析を完成、英語科教員で共有はできた。今後は分析結果をより指導方法等に体系的に生かしていくことが必要。(○) ウ 87.4%、オンラインにより、海外や遠隔地とつないで交流を実施。ただつなげるだけではなく、事前事後の学習もしっかり行い、交流を充実させる必要がある。(○)</p>
	<p>(4) ICT等の活用</p>	<p>(4) ア 1人1台端末導入を見据え、ICTを活用したより質の高い授業や講習を実施する。 イ 課題研究で生徒にICTを活用させる。</p>	<p>(4) ア 効果的なICTの活用実践事例の情報交換の場を校内において年間3回開催する。 イ 課題研究でのICT活用率100%。</p>	<p>(4) ア 「ICT活用チーム」が中心となり、情報交換・校内研修を年間3回開催。資料の共有も行う(◎) イ LINCなどでICTをさまざまな形で活用した。(○)</p>
	<p>(5) 希望進路達成率</p>	<p>(5) 希望進路達成率(第2希望含む)の向上</p>	<p>(5) 希望進路達成率(第2希望含む)70%以上を維持する。 [80.8%]</p>	<p>(5) 81.2%(◎)</p>
	<p>(6) 新学習指導要領等に対応した授業や評価の実施</p>	<p>(6) ア 思考力を問う新しい大学入試を研究する。 イ ペーパーテスト以外の評価を導入する。</p>	<p>(6) ア、イ 各教科において、新大学入試や評価方法を研究・実践し、年間3回情報交換。</p>	<p>(6) ア 各教科等において年間3回以上評価方法などについて情報交換・意見交換などを開催。これを次年度以降、より具体的な実践につなげる必要がある。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成</p>	<p>(1) クラブ活動加入率の増加</p>	<p>(1) クラブ活動加入率増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう活性化委員会や後援会が支援。年度途中でも入部しやすい環境づくりに取り組む。</p>	<p>(1) クラブ加入率78%。 [73.4%]</p>	<p>(1) 年度当初の部活動紹介の時期や年と途中にたびたび活動がストップし、なかなか思うような取り組みを進めることが難しかった。部活動加入率は72.6%。(△)</p>
	<p>(2) ユネスコスクールの活動</p>	<p>(2) ア ユネスコスクールとして国内外に情報発信を行い、その取り組みを校内の共有財産とする。人権HRや職員人権研修を実施する。 イ 泉佐野市等が主催する様々な地域イベントにユネスコスクールとして関わる。</p>	<p>(2) ア 学校教育自己診断で人権・国際教育等への肯定感80%以上維持。 [81.2%] イ 全国規模、地域規模の発表会やコンテストに1回以上参加。</p>	<p>(2) ア 生徒の人権問題や国際教育等への肯定感は87.4%。今後は質をより向上させる必要がある。(◎) イ 泉佐野市イラストコンテスト、地域イベント、LETS合同発表会等に参加した。生徒のモチベーション向上にもつながるので積極的に進めたい。(○)</p>
	<p>(3) 生徒会活動の活性化</p>	<p>(3) ア 限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を活性化させる。 イ 近隣支援学校や地域等との交流などに取り組めるようにする。</p>	<p>(3) ア、イ 学校教育自己診断「生徒会活動が活発である」85%以上。 [70.1%]</p>	<p>(3) ア、イ 生徒会執行部が良く工夫をして取り組んだ結果85.4%という数字を得た。できることを工夫させていきたい。(○)</p>

府立佐野高等学校

	(4) キャリア・パスポートの活用	(4) 様式を確定したうえで実施時期・方法を明確にして活用実践に移行する。	(4) 年間3回(目標設定・進捗・達成)振り返りの機会をつくる。	(4) 「学習進路指導部」(首席)が中心となり、4月、9月、2月(3年生は12月)に目標設定・進捗確認・達成確認と次年度への展望を実施した。(○)
3 生徒の希望をかなえる学校づくり	(1) 満足度の高い学校生活	(1) 行事を生徒主体で取り組ませるなどして学校生活に対する高い満足度をより向上させる。	(1) 学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」85%をめざす。 [81.3%]	(1) 81.7%と目標をやや下回った。制限がある中で、何が生徒のモチベーションを引き上げるのかを検討して、学校生活への意義を見出させたい。(△)
	(2) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校づくり、メディアリテラシー教育推進、自宅学習時間確保	(2) ア 遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。 イ メディアリテラシー教育(SNSに関する指導)を計画的に行う。	(2) ア 年間総遅刻数1,800件以内。[1,612件] イ 各学期終業式に生徒指導課の講話。外部講師による講演。その他人権HRを年3回。	(2) ア 12月末現在1,019件とかなり減少している。生活習慣づくりの第一として指導を強化してきた効果。(◎) イ 講話や人権HRは予定通りするだけでなく「人権だより」を各クラスに配付して担任からも丁寧に指導を続けてきた。(○)
	(3) 保護者・地域への情報発信、保護者からの情報受領を促進	(3) ア 在校生の様子を母校(中学校)へ発信する。 イ 全員で広報する体制をさらに強化する。 ウ 広報スタイルをさらにブラッシュアップし、広報媒体(チラシ・リーフレット、WEB)に継続的に工夫を加える。 エ 文書配布、ホームページ、メールの活用促進。	(3) ア 在校生メッセージを母校へ届ける。 イ 泉南地域の全公立中学校を訪問する。 ウ WEBページを充実し、週に3回以上の情報発信を行う。毎月1回国際教養・文化科の取組みをWEBより発信。 エ 保護者への情報発信、校内の情報共有を充実する。	(3) ア 在校生から佐野高校での生活についてメッセージを集め、出身中学校・地域別に分類・整理送付した。(○) イ 6月に泉南地域の全公立中学校及び泉州地域の数校を訪問して本校の広報を行った。(◎) ウ WEBページを改訂。毎月1回以上の発信はあったが、国際教養科・文化科に特化した発信は想定を下回った。記事内容や校内からの発信者の数は大いに増えたが、配信対象者を意識した記事内容の精査などをより検討する必要がある。(△) エ 保護者への情報発信には努め一定程度の充実はあったが、コロナ禍で来校が極端に制限されている中、学校行事などの様子を知りたがっている保護者が少なからずいる。そういった保護者の要望への対応を検討する必要がある。(○)
	(4) ノークラブデー活用と働き方改革	(4) ノークラブデーと働き方改革の理解を深め、実践につなぐ。	(4) 月間超過勤務時間80時間以上人数(のべ)を30人以下にする。 [29人]	(4) 職員への働きかけの成果か12月末現在13人と減少している。しかし業務の偏りなど検討を必要とする課題はまだある。(◎)